



二宮町総合計画・総合戦略 町民ワークショップ

平成 27 年 10 月 24 日（土）
午前 9 時 30 分～12 時開催
参加者：41 人

第 3 回 記録

検討内容

以下の 4 つのテーマについて、「おおむね 5 年後の望ましい姿を実現するために、私たちは何をすべきか」、プロジェクトを提案しました。

- ①ファミリー層 子育て、教育
- ②まちの中の魅力づくり
- ③コミュニティ活動、地域内の助け合い
- ④しごと場づくり

検討結果

各グループの検討結果は以下の通りです。

【部会名】子育て・教育

【プロジェクト名】子育て世帯向け転入プロモーションプロジェクト

■概要：子育て世帯向けに転入プロモーションを行う。

ミッション


- ・人口減少緩和を目指す。
- ・転出を止める。
→賃貸している人に対して、二宮町で持ち家を購入してもらう、あるいは、広い賃貸に引っ越ししてもらう。
- ・2人目を産んでもらう。
- ・転入を促進する。

目標：

- ・「住んでよし」を目指し、町内は静かに生活し、生活に必要な施設は、近隣市町に行く。
- ・便利な田舎を目指す。
- ・施設の利便性に対して、二宮町は田舎であることをよしとする。

▼具体的な取り組み：二宮で「住む」という日常をブックレットにする。

- ・行政などが取組む新しい案も合わせて提案、記載する。

- 
- ・子育てにやさしいということを、わかりやすくアピールする。
 - ・吾妻山は観光客に対してはアピールになるが、転入促進ではないので、これに頼らない。

▼具体的な取り組み：子育て世帯転入促進のための行政などの新しい取組を記載する。

- ・近隣市町と連携して、近隣市町の公共施設も安く利用可能とする。

【プロジェクト名】子育てカントリーづくりプロジェクト

■概要：子育て世帯向けに転入プロモーションを行う。

- ・二宮町の転入の理由は「家族や親戚がいるから」というものが多いので、長期的に考えた場合、たくさん二宮町で産んでもらい、その子どもたちが将来転入してきれることも意図して、転入してたくさん産んでもらうことが重要である。

▼具体的な取り組み：子育て世帯が転入するための空き家の活用

- ・空き家バンク
- ・二宮町の住み替え希望者向けの口コミ集め、提供
- ・空き家の片付け支援や片付け資金提供
- ・不動産事業者との情報共有

▼具体的な取り組み：出産から教育まで切れ目ない子育て支援

- ・出産から教育までのサービスが町内で完結するようにする。
- ・産婦人科を誘致するため、建物を町が立てて診療所を用意して、医者がいなくなっても別の人を呼んでこられるようにする。
- ・子ども用品を取り扱う店舗を誘致する。町が建てた建物の一部を店舗として家賃収入を得る。

▼具体的な取り組み：子どもの遊び場プレーパークづくり


- ・東大跡地に、住民の活動を取り入れて、常時人がいる遊び場、プレーパークを整備する。
- ・シニアが活動を支援することで、若い保護者も活動に一步踏み出せるようにする。

▼具体的な取り組み：預かり（一時）保育

- ・社会福祉協議会が行うファミリーサポートでは、保護者のニーズ（夕方、日祝）を満たせないの
で、それ以外の預かりが必要である。
- ・保護者や支援者の1対1の関係で、それぞれどちらかの自宅で預かるのでは、結局預けることが
できない。施設で預かってくれる場所をつくる。

▼具体的な取り組み：子育ての保護者をつなぐコミュニティづくり支援

- ・住民同士や様々な活動をしている方々との横のつながりや行政との協働が必要。集まればコミ
ュニティができる。
- ・近くに親戚がいなくても、子どもを預けて母親が働きに行ける環境づくり
- ・第1子の0歳の親向けには集まる場があるが、第2子以降は参加できない。親に子育て経験があ
っても、子どもと同じ月齢の子と知り合う機会は貴重なので、すべての子どもに対しての横のつ
ながりが必要である。
- ・高齢者の協力を得て行い、雇用創出にもつなげる。
- ・シルバー人材センターのヘルパーの利用は、今の子育て家庭は知らないし、利用できるイメージ



がない。改善するなどが必要。

【行政への提案】

■子どもが利用しやすい公共施設づくり

- ・ラディアンに授乳とおむつ替えの部屋をつくる。
現在は、職員に言って空いている部屋を用意してくれるとのことだが、授乳やおむつ替えはすぐに必要なので、待っているのでは利用しにくい。
- ・他の地域で行っているような、老人ホームと保育園が一緒になった施設

■小中学校の統廃合などによる公共施設の有効活用

- ・小中一貫校にしてはどうか。
- ・百合ヶ丘保育園は狭いので人数が減っている一色小学校を保育園にしてはどうか。
- ・小学校と保育園を一緒にして地元の人たちが集まれるコミュニティスペースにしたい。自然が沢山でなるにはもったいない。

■保育園の質の改善

- ・保育園と保護者の間をきちんと取り持つことが必要。園と対等に話し合えて、指導できる立場の団体が保護者の身近にあることが必要。
- ・待機児童の解消とともに、保育の質や魅力的な保育にする。

■取り組みの方向性：子育て世代の声を集めて実現する体制づくり

- ・行政が子育て世代が集まる場所に出向いて話を聞いて、できることを実現する体制づくり
- ・子育て世帯の声を反映できる行政として、意見を聞く場を増やす。

■子育て世代の声を集める工夫

- ・子育て世代の声を具体的に拾い上げる場が定期的にあるとよい。
- ・子育て世代同士で考える場を町が働きかけて用意する。
- ・給食を熱心に考える親は少ない。まかせっぱなしではなく、動く親の支援や場や子育て世代の意見を町が受け入れる体制づくり



【部会名】 コミュニティ活動・地域内の助け合い

5年後目指す姿

■ 概要：既存の地域活動やコミュニティの「枠」が広がり、新しい人の参加が増えている

- ・今後5年間で地域活動やコミュニティを新たに作り直すことは難しい。
- ・今ある地域活動やコミュニティを基本としつつも、そこに少しでも新しい人に参加してもらい、活動が活性化するような取組を行うとよい。

【プロジェクト名】 新しい地域交流拠点を活用したコミュニティの活性化

■ 概要：広報による意識喚起と空き地などを活用した場づくりをめざす

- ・防災無線などを活用した広報活動により、子どもや子育て家庭にやさしいまちとしての雰囲気づくりや町民に対する意識喚起を行う。
- ・町民の意識喚起と平行して、地域にある空き家などを活用し、子どもや子育て家庭だけでなく、誰もが気軽に集まれる場づくりを行い、地域の人々の交流・関係づくりを促す。

▼ 具体的な取り組み：防災無線など広報手段を使った子ども・子育て家庭にやさしい雰囲気づくりと町民への意識喚起

- ・二宮町が子どもや子育て家庭にやさしいまちとしての雰囲気づくりをするために、防災無線を使った広報活動を行う。
- ・5時のメロディーにあわせて、小中学生が考えた標語などを子どもの声で流す。標語などの内容は子どもに考えてもらおうと良いのではないかと。
- ・防災無線は、緊急用のアナウンスのみに使われており、現状でそれ以外の目的に使うことは難しい。頻繁に使用すると、うるさいと苦情が来ることもある。
- ・5時のメロディーは、防災無線が正常に作動するか確認する意味もある。5時のメロディーと一緒に小中学生が考えた標語を流す程度であればできるかもしれない。当面は、試験的に5時のメロディーと一緒に標語を流し、反応がよければ意識啓発のメッセージを流す回数を増やすなど町民と行政がやりとりをしながら調整していけばよい。
- ・吾妻山の近くの地区など、防災無線が聞き取りにくい場所がある。あわせて改善が必要ではないかと。
- ・自主的にあいさつができる雰囲気づくりが進むと良い。あいさつ活動をしている組織もあるようだが、個人レベルでも自らあいさつができる環境ができると良いと思う。


▼ 具体的な取り組み：空き家を活用した地域の交流の場づくり

○現状

- ・行政が実態調査を行い、空き家の状況を把握している段階だ。

○課題

- ・空き家情報は個人情報の問題で全てを公開することは難しい。情報公開によって空き家へのいたずらが心配されるため、簡単にはいかないとも予測される。空き家を活用したいと考える地域に



対してどのように情報提供するかが課題だ。

- ・空き家の活用で一番問題となるのは「継続性」の問題だ。空き家は所有者の心変わりですぐ使えなくなるかわからない。また、空き家を借りて運営する側も継続的な活動が必要だ。空き家を使うのであれば、こうした流動的な状況を踏まえて活用方法を考える必要がある。

○取組

- ・空き家を活用するためには、まず地域の人たちが何のためにどのように活用したいかを考えなければならない。所有者や行政と掛け合う前に、まず地域の人たちが主体となって空き家活用の方向性についてしっかり考え、それを地域内で共有することが重要だ。
- ・行政は、空き家に関する情報を持っているが、全ての情報を出すわけにいかない。しかし、地域の要望に応じて、地権者との調整や活動に必要な支援を行うことなどできることもある。空き家の活用を促すためにも、行政は地域の要望に応じて、情報提供や調整ができるという姿勢を町民に伝えていくことも大事だ。
- ・空き家活用においては、地域主体で進めつつ、必要に応じて行政が支援をする関係ができるとうい。

○所有者に対するメリット

- ・空き家活用が進まないのは、所有者が物件を貸すことに対して二の足を踏むことが一因である。そのため、所有者にとって、物件を貸すことにメリットがあれば話が進みやすいのではないか。
- ・空き家活用を進めるときのメリットとしては、持ち主に代わって地域が管理してくれることにある。
- ・所有者は、空き家の管理に頭を悩ませていることが多い。遠方に住んでいるなどの理由で十分な管理ができないが、かといって放置するのは心配である。そうした問題を解決するために、空き家を活用させてもらう変わりに、地域で空き家を管理し、定期的に物件の様子を所有者に提供するなどのしくみができるとういのではないか。

○5年後の将来像

- ・空き家を活用して何らかの活動が行われている状態を目指す。
- ・活動の内容は地域特性や課題によるため、特定しない。
- ・子どもが自由に出入りできる場・遊び場としての活用や、まんが喫茶的なもの、小さな子どもを持つ母親が集える場、場合によっては店舗や事業の場としての活用も考えられる。
- ・空き家の活用の可能性は大きい。


▼具体的な取り組み：子どもが好きなだけ遊べる場づくり

○現状

- ・子どもの遊び場は必要だが、実際作るとなると簡単ではない。
- ・学童保育ですえいろいろ問題が出てきている。いろいろなルールや制約があり、こどもが気軽に行ける環境ではない。
- ・放課後の校庭開放も一度帰宅してからでないとういできないとうい不便さがある。
- ・子どもは自分の遊びたい場所に自分で選んでいく。特に小学生になると、自転車などで少し遠くまでいける。必ずしも近くになければいけないとういけないわけではない。
- ・遊び場づくりに限らず、地域での取組が成功している例には必ずキーパーソンが存在する。地域で活動するにあたってはそういった意欲のある人材を見つけることが必要となる。

○取組

- ・学童保育を少しゆるやかにした子どもが自由に出入りできる学童保育のような場を地域でつくってはどうか。具体的には、空き家を活用した地域の交流の場づくりを活用すると良いのではないか。



▼具体的な取り組み：子育てに対する地域のサポート体制づくり

- ・時間切れのため議論できず



【部会名】 しごと場づくり

【プロジェクト名】 人と資源の活躍プロジェクト

■ 概要

- ・土地、建物、店舗、人材といった、二宮町特有の資源を最大限に活用し、行政がつなぎ役となった信頼性あるモデル事業の実現に向けた取り組みを進めます。

▼ 具体的な取り組み：情報発信（町民、行政）

- ・「わたしは〇〇ができる」ということを町民自身が発信していく。
- ・町民からあがってきた声を受け止める場所をつくる。
- ・ボランティア・NPOなどの職場としての情報のほか、二宮町の事業者一覧など、全ての情報を集約させる。
- ・行政はそのような集約された場があることを、情報として発信する。
- ・ラディアン、駅など、多くの人々の目に入りやすい場所へ掲示板を設置する。
- ・企業を誘致するためにも、二宮町にいる人材のPRを積極的に行う。

▼ 具体的な取り組み：資源の活用（土地、人材、スキル）

- ・町として人材を育成する。
- ・行政が間に立ち、土地や温泉等の民間資源の活用を進める。
- ・コーディネートに秀でた町民を人材として確保する。
- ・学術・研究に特化した事業者の誘致など、専門性に特化したまちを目指すことも考える。

▼ 具体的な取り組み：町民意識の醸成（自分の成長、新しいことの受け入れ、行政の融通性向上）

- ・町民自らが、二宮町のこれからの担う人材として成長する。
- ・起業したい人を町民が呼んでくる。

▼ 具体的な取り組み：事業の行政認定（信頼性）

- ・行政がつなぎ役となり、企業家としてのコーディネーターを活用した事業などを、モデル事業として認定する。



【部会名】 まちの魅力づくり①

【プロジェクト名】 二宮コンシェルジュプロジェクト

■ 概要：HPを使った二宮の魅力の情報発信

- ・町には魅力が既にあるという前提で情報発信を行う。
- ・一般的な観光情報だけでなく、町民の日常の生活情報や休日の過ごし方など、二宮の様々な情報をリアルタイムで発信する。
- ・町民の中から情報を発信してくれる人を幅広く募集する。

▼ 具体的な取り組み：ファミリーの生活情報などの日常生活の情報発信

- ・町外に毎日通勤するお父さんの一般的な生活を伝える「お父さんの一日」や、町内で一日を過ごす「お母さんの一日」、リタイアした高齢者が畑を楽しむ様子などを伝えるなど、年代を問わず町民の日常生活を発信し、二宮町に転入を希望する層に二宮ライフをアピールする。
- ・町民が買物する店舗の情報や、休日に子どもと出かける場所の情報、畑を借りられる場所など田舎ライフ情報なども発信する。
- ・公開日記風、ブログ形式や、facebook形式など、手軽にできる方式で情報発信を行う。
- ・文章だけでなく、写真もあると良い。

▼ 具体的な取り組み：観光のお勧めルートの発信

- ・HPでは町民がそれぞれ自分のお勧めルートを発信できるようにする。
- ・里山巡りや、鎌倉古道、道祖神など、テーマ性を持たせた観光ルートを発信する。
- ・ガイドマップ等の印刷物は、現在は各主体がそれぞれバラバラにマップを発行しているので、大手旅行会社等が書式を揃えてパンフレットを作っているのを真似て、書式を揃えると経費も安くなり、多様なルートを紹介出来るのではないかな。
- ・ボランティアガイド等による「まち歩き」を開催できると良い。

▼ 具体的な取り組み：準公式案内人の設置

- ・町民による自発的な情報発信は、内容等が特定の分野等に偏る可能性があるため、客観的に総合的に情報発信を行う「準公式案内人」（準は町が公式に設置する案内人ではないという意味）を設置してはどうか。

▼ 課題、行政へのお願い：

- ・安心してまち歩きが出来る歩行空間の整備や、案内標識の整備をお願いしたい。
- ・学校の質がアップすれば、転入者も増えるのではないかな。
- ・町が掲げる「長寿の里」は若いファミリー世帯の転入を狙うのであればミスマッチではないかな。



【部会名】 まちの魅力づくり②

【プロジェクト名】 二宮いきコミュ（いきいきコミュニティ）プロジェクト

■ 概要：人をつなぎ、地域や場をつなぐ拠点づくり

- ・みんなが自然に集まれる場で、そこに行けばいろいろな情報が分かり、みんなにとって縁側・プラットフォームとなれる、サロンのような拠点を作る。例えば、そこに行けば観光やボランティア活動の情報が分かる場所をつくる。
- ・その拠点は、人をつなぎ、地域や場所をつなぐマッチング機能を有する。町と町民の持っている情報をとりまとめ、町と町民をつなぐ総合窓口のような役割を持つ。
- ・町の人材や資源を活用できるプログラムを実施する。指導してくれる人や専門家を呼ぶなどの旗振り、きっかけは町がやるとしても、それに町民が乗り、活動して行く中で町と町民の役割分担ができて、活動を継続できればよい。
- ・二宮町にはお互いが顔のつながりで動いている面もある。二宮は地域のつながりが活かされている地域で、それを活用する。
- ・住民の力を活用して、町と町民が一体となった事業を行うことができれば良い。町民は親切な人が多い。いかに知恵を出すかだろう。

▼ 具体的な取り組み：起業と空き家・空き店舗の活用


- ・企業するためにはどうするかなどについて、専門家からレクチャーを受け、指導してくれるプログラムを実施する。
- ・起業や商売を始めようと思っても、地主がなかなか土地を貸してくれない。仲介役がいれば、始められやすい。
- ・その拠点に行けば、土地の貸与や店舗の空き状況などが分かるなど、起業についての情報が分かるようになっている。

▼ 具体的な取り組み：観光と文化

- ・観光の目玉を作る必要がある。二宮に来ると「面白い」「楽しい」と思ってもらえるようなものが必要で、何を観光の目玉とするのか。
- ・「吾妻山」は観光の拠点になり得る。子育ての人も吾妻山に訪れている。
- ・観光としての「みかん」や「街歩き」も観光の目玉になれる。
- ・「地曳網漁」を活用した「海の文化」も観光の資源になり得る。
- ・魅力づくりには「文化」が必要である。二宮の文化として、石仏やお祭り、講、地域のつながりがある。
- ・東大果樹園跡地も魅力がある。以前、ドコ遊びを企画・実施したら、多くの人に来てくれて、楽しい催しを行うことができた。
- ・こうした観光を売り出すためには、観光ボランティアを育成するプログラムが必要である。
- ・海や川、野鳥、吾妻山、果樹園跡地、文化など各観光ポイントは現在、単独でバラバラにあるため、それらをつなぐ・マッチングさせる機能をその拠点が有する。

▼ 具体的な取り組み：既存施設を活用したモデル事業から広げる

- ・地区会館を活用するなど、既存の施設を活用できればよい。ギャラリーが起点となっているとこ



るもある。

- ・そこには情報を求めてくる人がいるため、常駐者が必要となる。まずはモデルとなる場を作り、そこから広めていってはどうか。
- ・二宮にはさまざまな経験をしてきた人がたくさんいて、いろいろなことをやれる人材はいる。
- ・大きなイベントで集客するのではなく、町の資源を活用した形でたくさんの方が来てくれるような仕組みを作る必要がある。

▼プロジェクトに必要なこと：キーマンの存在

- ・キーマンとなる人がいると活動は継続できる。
- ・行政と町民につなぐ、コーディネートできる人がいると良い。
- ・多くの団体がつながれば面白いことができる。つながることが大切である。

▼プロジェクトに必要なこと：行政の見える化と一定の方向性

- ・行政のやっていることが見えてこず、情報を外に出していく必要がある。
- ・商店街をどう活性化するか。また、再開発をしていくのか、それとも今までの資源を活用していくのか。空き家、空き店舗をどうするのか。企業誘致を行うのか。町をどういうベッタタウンにしていくのか。町をどうするのかの方向性を示す必要がある。
- ・みんなで同じ方向を向いていない。関係者がバラバラであり、一定の方向性を持って取り組んでいけるとよい。
- ・民間を活用する場合、町として方向性を示す必要がある。そうしないと、民間のやりたいようになってしまう。

▼プロジェクトに必要なこと：役割分担

- ・町はやり過ぎる。町民の力を活用する必要がある。役割分担の仕組みが必要である。
- ・たらい回しではなく、相談に行ったら何でも対応してくれる部署があればよい。町民が活動しやすくなるための仕組みや部署が必要である。
- ・専門家は必要だが、やるのは町民である。
- ・地域で解決できるグループがあれば良い。

▼その他

- ・魅力づくり、子育て、仕事、コミュニティの4つを話し合うことは必要だが、それぞれがバラバラではなく、関連・リンクする部分もある。それらを総合的に検討することも必要である。